

# 市民等からの目撃情報および捕獲実績を活用した ヌートリアの分布域の推定

曾根 啓子（名古屋市環境局 なごや生物多様性センター）



## 背景・目的

ヌートリア（*Myocastor coypus*）は南米を原産地とする半水棲の齧歯類である。愛知県においては、近年、本種の分布域が**県内のほぼ全域にまで達している**ことから\*、名古屋市内においても同様な分布域の拡大が起きている可能性が高いと考えられる。実際に、2000年時点では、市内のごく一部の水系のみに目撃・捕獲情報が限られていたが\*\*、**近年は市内各地の水辺で目撃**されるようになってきている。こうした目撃情報の多寡は、市内における本種の生息状況にある程度反映しているものと考えられる。そこで今回、市民等からの目撃情報に加えて、有害鳥獣駆除による捕獲実績をもとに、目撃・捕獲件数の経年変化の把握、目撃情報が増加する時期の特定、ならびに分布域の推定を試みた。

### 名古屋市内で目撃されたヌートリア



2024.03.06 守山区小六町（矢田川） 2024.06.10 港区西蟹田（戸田川） 2022.10.30 港区七反野（用水路）

\*：愛知県環境調査センター。2021. 愛知県の外来種ブルーデータブックあいち2021. 愛知県環境局環境政策部自然環境課，名古屋，217pp.  
\*\*：曾根ほか，2006. 野生化ヌートリア（*Myocastor coypus*）による農業被害—愛知県を中心に—，哺乳類科学，46：151-159.

## 調査方法

当センターに寄せられた市民等からの生物目撃情報のうち、ヌートリアに関するものを抽出し、目撃された日付と地点について集計した。また、市内におけるヌートリアの有害鳥獣駆除の捕獲実績をもとに、各年度における捕獲頭数および地点数を計数した。

### 本調査に用いた各情報の収集年度および件数

情報源	収集年度	収集件数
市民等からの目撃情報	2011～2023	163（147）
有害鳥獣駆除による捕獲実績	2008～2023	122

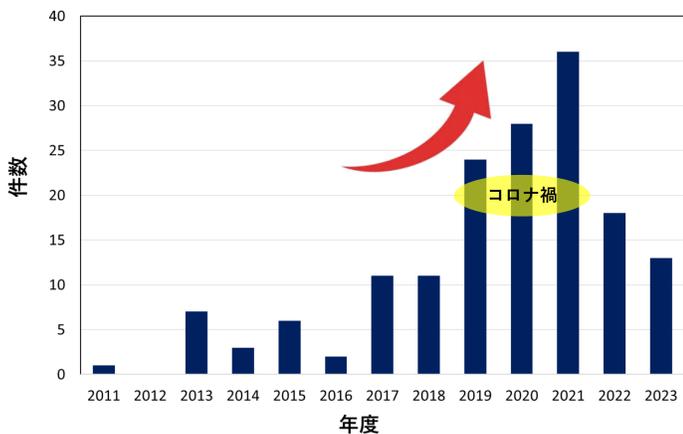
（）内は地点が特定できたもの



- ・市民等からの目撃件数の経年変化（結果①）
- ・有害鳥獣駆除による捕獲頭数・地点数の経年変化（結果②）
- ・市民等からの目撃件数の月別変化（結果③）
- ・市内における目撃・捕獲地点の推移（結果④）

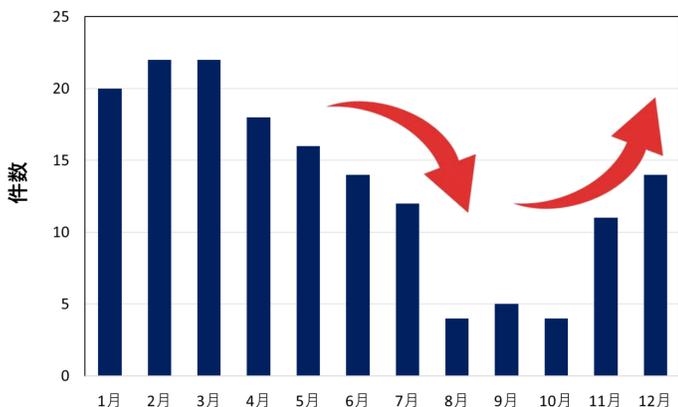
## 結果・考察

### 結果①：市民等からの目撃件数の経年変化



2011年度から2016年度までは各年度の件数が1桁台であったが、**2017年度から2021年度にかけて右肩上がりに増加**していた。市内でのヌートリアの分布域が拡大したことに加え、コロナ禍で水辺を散策する市民が増えたことが目撃件数の増加につながった可能性がある。

### 結果③：市民等からの目撃件数の月別変化

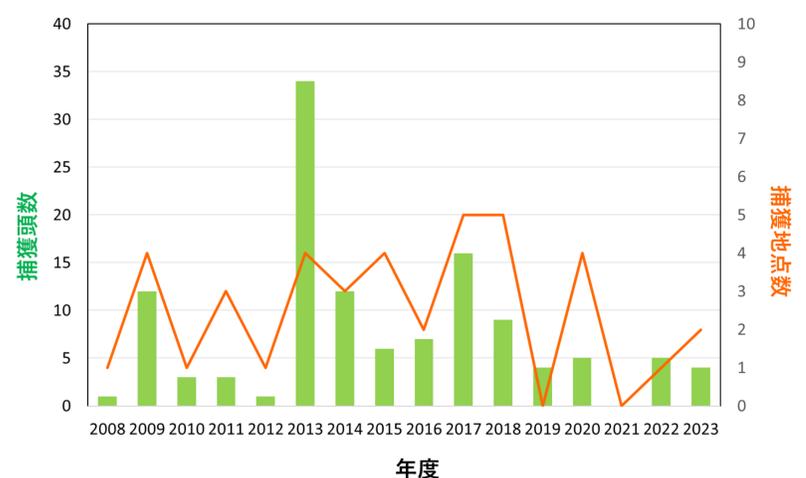


目撃件数は**11月から2・3月にかけて増加し、4月から10月にかけて減少**する傾向が認められた。本種は、本来は夜行性であるものの、寒い時期には日中にも活動すること、また冬季には水辺を覆っている植物が落葉または地上部が枯死して見通しが良くなることから、目撃件数の増加につながったものと推察された。



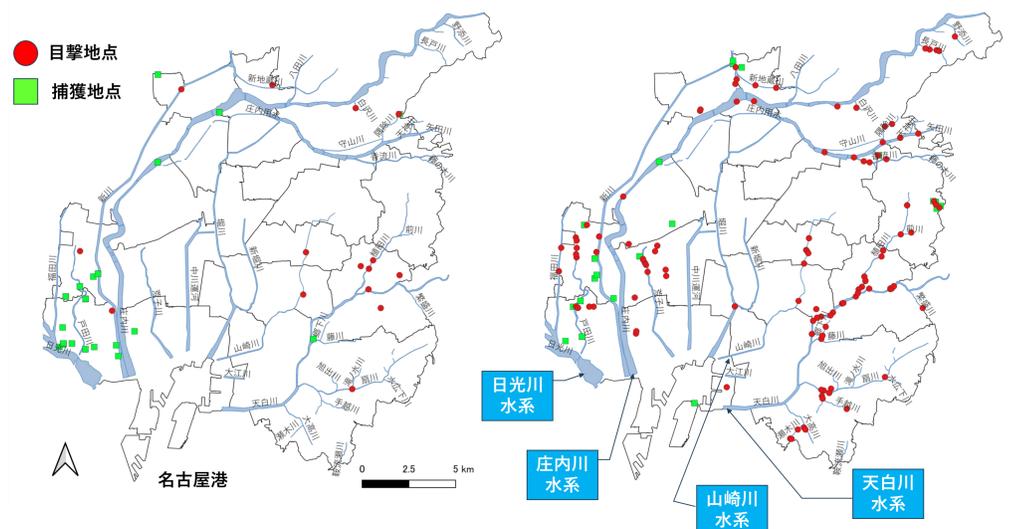
冬季における河川での目撃例

### 結果②：有害鳥獣駆除による捕獲頭数・地点数の経年変化



2013年度を除き、各年度の捕獲頭数自体が少ないことに加えて、捕獲地点数も極めて少ないため、経年変化を把握することは出来なかった。

### 結果④：市内における目撃・捕獲地点の推移



#### 2008～2016年度

#### 2017～2023年度

目撃・捕獲地点数は、2008～2016年度では**39地点**であったのに対し、2017～2023年度では**148地点**へと大幅に増加していたことから、**分布域の拡大**が示唆された。また、水域で見ると、市内の主要な4水系（庄内川、天白川、日光川、山崎川）の本流および支流、これ以外の2河川や2井筋（用水路）、名古屋港河口部において確認されたことから、**市内の広範な流域にわたって生息**していることが明らかとなった。